

内科 プログラム

目的と特徴

- 専門医として内科領域全般にわたる最新かつ高度な診療能力を修得
⇒ 内科系の全11診療科が協力し、充実した専門研修を実現しています。
- 全人的な内科診療や地域医療に貢献できる内科医を育成
⇒ 香川県下全域にまたがる41の豊富な連携施設で研修できます。
- 自由度の高い2つのコース(①内科基本コース、②Subspecialty連動コース)から選択
⇒ Subspecialty領域の専門医もスムーズに取得できます。
- 医師キャリア支援センターが資格取得をサポート
⇒ 経験症例数や講習会受講など一人ひとりの研修をマネジメントします。

プログラムについて

3年間の専門研修では、主担当医として「研修手帳」の70疾患群、200症例以上を目標に経験します。本プログラムは豊富な連携施設や症例数、指導医数を有しており、修了要件を100%充足できます。基幹施設では最新の知識・技能を修得し、稀少疾患や研究発表を経験します。連携施設ではcommon diseaseや地域医療を経験します。



①内科基本コース

高度なGeneralistを目指す方、将来のSubspecialtyが未定な場合に選択します。内科領域を偏りなく学ぶことを目的としており、原則として2年間は基幹施設ですべての内科系診療科をローテーションします。残りの1年間は連携施設で地域医療を経験します。

②Subspecialty連動コース(合計2年のSubspecialty領域連動研修が可能)

内科領域全般のみならず、将来希望するSubspecialty領域に重点をおいた研修を行い、Subspecialty専門医をスムーズに取得することができます。1年間は基幹施設で内科系診療科をローテーションし、残りの2年間でSubspecialty領域の専門研修を連動して行います(連携施設2年コースor連携施設1年コース)。

連携施設一覧

- | | | |
|-------------|----------------------|--------------------------|
| 1 香川県立中央病院 | 15 総合病院 回生病院 | 29 東大阪医療センター[大阪府] |
| 2 高松赤十字病院 | 16 坂出聖マルチン病院 | 30 大阪赤十字病院[大阪府] |
| 3 高松医療センター | 17 滝宮総合病院 | 31 兵庫県立姫路循環器病センター[兵庫県] |
| 4 香川県済生会病院 | 18 宇多津病院 | 32 神戸市立医療センター中央市民病院[兵庫県] |
| 5 屋島総合病院 | 19 三豊総合病院 | 33 兵庫県立尼崎総合医療センター[兵庫県] |
| 6 りつりん病院 | 20 高松市民病院塩江分院 | 34 大阪急性期・総合医療センター[大阪府] |
| 7 KKR高松病院 | 21 三豊市立みとよ市民病院 | 35 道後温泉病院[愛媛県] |
| 8 キナシ大林病院 | 22 四国こどもとおとなの医療センター | 36 徳島赤十字病院[徳島県] |
| 9 高松平和病院 | 23 倉敷中央病院[岡山県] | 37 高知医療センター[高知県] |
| 10 さめき市民病院 | 24 川崎医科大学附属病院[岡山県] | 38 関西医科大学附属病院[大阪府] |
| 11 小豆島中央病院 | 25 国立循環器病研究センター[大阪府] | 39 山梨県立中央病院[山梨県] |
| 12 香川県立白鳥病院 | 26 大阪労災病院[大阪府] | 40 HITO病院[愛媛県] |
| 13 香川労災病院 | 27 住友病院[大阪府] | 41 大阪医科薬科大学[大阪府] |
| 14 坂出市立病院 | 28 りんくう総合医療センター[大阪府] | |

内分泌代謝内科

内分泌代謝を極める

● 診療科の紹介 ●

内分泌代謝内科は平成26年診療科再編に伴い設置された診療科であり、糖尿病および内分泌疾患の診療を行っています。糖尿病は、香川県において地域特有の疾患として患者数が急増しています。当科では、多職種連携による糖尿病重症化予防を目標に掲げ、チーム医療を強化しています。また内分泌疾患に関しては、四国有数の症例数を誇り、研修目標に掲げられた疾患群は言うに及ばず、一般病院ではなかなかお目にかかれなような希少疾患を経験できます。さらに当科の使命として、“生活習慣病への希少糖の応用”、“糖尿病患者の運動機能評価”、“ITを用いた遠隔糖尿病診療”などのプロジェクトを遂行しています。是非みなさんも一緒に、研修・診療・研究を行いましょ。

● 研修に関する行事 ●

内分泌代謝臨床研究に関するカンファレンス、内分泌代謝学に関する抄読会、各種内分泌負荷試験講習会、甲状腺エコーハンズオンセミナー、糖尿病治療薬講習会、受け持ち患者のカンファレンス、下垂体カンファレンス(脳神経外科と、2ヶ月に1度)など

● 取得できる専門医資格および技能 ●

当科は日本糖尿病学会・日本内分泌学会・日本動脈硬化学会・日本内科学会の認定教育施設となっており、それぞれの専門医の習得が可能となっています。新専門医制度にも対応しています。大学院に進むこともできます。



血液内科

先端的な分子・細胞・免疫療法を駆使して血液疾患の患者さんを救いましょう!

● 診療科の紹介 ●

血液内科では、赤血球・凝固系の疾患とともに、何といたっても白血病や悪性リンパ腫などの造血器腫瘍の診断と治療に全力を注ぎます。造血器腫瘍には化学療法や放射線療法が効きやすく、また造血器腫瘍に特有の治療として造血幹細胞移植があります。さらに近年は分子標的療法、免疫療法が急速に進展しています。血液内科は、こうしたさまざまな内科的がん治療をダイナミックに組み合わせて造血器腫瘍の治療を目指す、がん薬物療法のエッセンスが詰まった科です。また、診断に分子生物学的手法が多く取り入れられ、研究との距離が近いのも特徴です。コンパクトな県内に集まった香川大学血液内科の関連病院は良好なチームワークで強く結ばれています。しかも教育熱心で温かい人柄の先生がそろっています。このように整った環境で血液内科の専門研修を行い、ともに血液疾患の患者さんに笑顔を届けましょ。

● 研修に関する行事 ●

毎週火曜に血液・免疫・呼吸器内科全体のカンファレンス、多職種の移植カンファレンス、水曜夕方に症例検討会・勉強会、金曜夕方に検鏡会、月曜・金曜朝にショートミーティング、さらに月・木・金曜夕方にサインアウトミーティングを行って、毎日情報を共有するとともに血液診療の力を錬磨しています。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

●日本血液学会認定 血液専門医 ●日本造血・免疫細胞療法学会認定 造血細胞移植認定医 ●日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ●日本臨床腫瘍学会認定 がん薬物療法専門医 ●日本輸血・細胞治療学会認定医



膠原病・リウマチ内科

ともに目指そう!! Best Rheumatologist. ともに作ろう!! New Evidence.

● 診療科の紹介 ●

膠原病・リウマチ内科は、膠原病およびリウマチ性疾患を診療するRheumatologistという特殊集団です。専門医の名称がリウマチ専門医から基礎領域が内科の医師に関しては独立した機構認定の膠原病・リウマチ内科専門医に変わりました。不明熱や原因不明の関節炎・皮疹など診断・治療に難渋している患者さんを紹介頂くため、病歴聴取や全身所見を把握する特殊技能が必要です。また複雑かつ多様化する血液・画像検査所見を解釈する能力と臓器の生検手技が必要です。最近では筋骨格系の超音波検査技術も必須です。これらのスキルを当科では沢山の患者さんを通して培う事ができます。年間患者数は2,491人、入院患者数は18床で163人(2021年度)を診療しています。さらに大学病院に加えて香川県立中央病院・さぬき市民病院・国家公務員共済高松病院・宇多津病院・キナシ大林病院・道後温泉病院・高松赤十字病院・岡山赤十字病院などの県内外の基幹施設に加えて、東邦大学大森病院や大阪医科薬科大学病院などの県外の大学病院との相互研修も行えます。香川県の膠原病・リウマチ内科専門医研修プログラムは当科を基幹施設とした一つだけになります。しかし全国の膠原病・リウマチ内科専門施設で研修ができるネットワークを構築しています。専攻医に対して、総合内科専門医・指導医を併せ持つ膠原病・リウマチ内科指導医6名、膠原病・リウマチ内科専門医6名が複数名で指導し、特殊技能に加えて人間力をもつ臨床医の育成が教育の目標です。専門医・指導医の取得は勿論ですが希望者には学位取得の機会を持って頂きます。また膠原病・リウマチ内科診療の進歩へ貢献するため、多施設共同ならびに独自の臨床研究や新規治療薬の開発治験(医師主導ならびに企業治験、実績として2017年~2021年度末で合計47件と中四国でもトップクラス)を担当し、日本およびグローバルの新たなエビデンス作りに参画してもらいます。また研修医・医学生への教育への参画を通して指導者としての資質を獲得してもらいます。女性スタッフも多く、それぞれのワークライフバランスに合わせて柔軟に働いています。2021年度は2名の女性医師が入局し、現在女性指導医3名、女性専攻医4名(男性専攻医は3名)が大学病院および連携施設で活躍しています。若年齢や女性の患者さんも多いため、就職・結婚・妊娠出産など、ライフイベントを考えた診療が必要となり、男女共同参画が目指せる領域となっています。中国・四国でもトップクラスの症例数、専門医・指導医を有する香川大学医学部附属病院 膠原病・リウマチ内科でぜひ一緒に患者さんの人生のパートナーとなれるRheumatologistを目指しましょう。

● 研修に関する行事 ●

- 血液・免疫・呼吸器内科学講座全体でのカンファレンス; 横断的な症例検討です。
- 新患カンファレンス; 診断と治療のためのアプローチを共有します。
- 学会; 日本リウマチ学会、日本内科学会、日本臨床免疫学会、欧州リウマチ学会、米国リウマチ学会などに研究業績を必ず発表します。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

総合内科専門医および膠原病・リウマチ内科専門医の資格取得が最短で可能です。



呼吸器内科

「急性から慢性疾患まで、良性から悪性疾患まで」幅広く診て治す

● 診療科の紹介 ●

呼吸器内科は多彩な疾患を担当しています。細菌性肺炎のような感染症、過敏性肺炎のようなアレルギー性疾患、間質性肺炎のようなびまん性肺疾患、肺癌のような悪性腫瘍など幅広く、気胸や呼吸不全のように急な対処を要する状態も含まれます。自覚症状を考察し、身体所見を詳細にとり、血液検査を適切に解釈し、画像所見を正しく読影することにより患者さんの病態を包括的に捉えることを訓練します。エコーガイド下を含む気管支鏡検査はマスターするべき手技です。初期および後期研修中には呼吸器領域のみならず、内科一般診療において全身を診る力をつけていくことも重要です。そこで大学病院と関連病院の強い連携の下、優れた臨床医となる手助けをしたいと考えています。また将来的に大学院で研究に従事することや、国内外へ留学することなど、希望に応じた進路を提案していきます。

● 研修に関する行事 ●

カンファレンスとしては、血液・免疫・呼吸器内科学の枠組みで、多角的視点に立ったモーニングカンファレンス(火曜日)、当診療科内での専門的なカンファレンス(火曜日)、呼吸器外科・放射線診断科・放射線治療科およびCancer Boardを兼ねた合同カンファレンス(月曜日)があり、症例によっては病理診断科・病理部も参加します。気管支鏡(火曜日)では、毎週数例を実施していただきますので半年もすればかなりの実力が身に付きます。最近のトピックスの論文を読み込む抄読会(水曜日)は、呼吸器疾患の理解を深めることに役立つでしょう。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

総合内科専門医、呼吸器専門医、および気管支鏡専門医の取得が可能です。希望にあわせてがん薬物療法専門医や感染症専門医なども取得可能です。



循環器内科

急性期から慢性期までの心臓・血管疾患に対応した研修を行っています。

● 診療科の紹介 ●

循環器内科の後期研修医は、心臓血管センター(30床)・CCU(6床)で上級医と共に担当医としてチームで診療を行います。循環器救急の初期対応、診断法、治療方針の作成・実施、術後管理、心臓リハビリテーションを含む慢性期まで基礎臨床能力を取得するためのサポート体制が整っています。循環器内科は心臓・血管を診る唯一の内科です。循環器に強い総合内科医、循環器専門医を目指している先生を歓迎いたします。

● 研修に関する行事 ●

入院患者カンファレンス、心カテカンファレンス、心臓外科内科合同カンファレンス、モーニングカンファレンス、教授回診、モーニングレクチャー

● 取得できる専門医資格および技能 ●

当院は、循環器病各専門学会の認定教育施設であり、各専門研修が行えます。虚血性心疾患には冠動脈造影検査を実施し、熟練医と共に経皮的冠動脈インターベンション術を習得します。不整脈疾患には電気生理学的検査、カテーテルアブレーション、ペースメーカーや植込み型除細動器の植込みから管理まで行います。心不全には急性心不全患者のCCUでの全身管理、特定心筋症の各種画像診断を用いた病態把握、薬物・非薬物療法を行います。さらに植込み型補助人工心臓の管理を行います。大学病院は専門研修をしつつ大学院博士課程に進む事も可能です。研究は、心不全、不整脈、動脈硬化等をテーマに多くの臨床研究、基礎研究を行っています。一方、関連病院での研修も可能です。また、生活習慣病の管理や他科からの循環器疾患のコンサルトへの対応など多くの経験が積めます。



腎臓内科

検尿異常から腎移植までの幅広い腎臓病に対応した後期研修を行っています。

● 診療科の紹介 ●

慢性腎炎・ネフローゼ症候群、急性腎障害(AKI)、高血圧・体液異常、末期腎不全(血液透析、腹膜透析、アフェレシス)、腎移植などの腎臓専門病態から慢性腎臓病(CKD)患者の感染症や水・電解質・輸液療法を含むcommon diseaseまで経験可能です。

病床は11床で、年間50件の腎生検、年間40件の腎代替療法導入(うち腹膜透析9例)、年間60件の内シャント造設術を行っています。一つの病棟で水・電解質異常や腎生検からアクセス血管外科、腹膜透析や腎移植まで腎臓に関するすべての臨床研修を受けることが可能な全国でも数少ないグループです。

● 研修に関する行事 ●

教授回診、腎透析カンファレンス、腎組織カンファレンス、血管吻合ウエットラボ、研修医勉強会、学会発表、初診外来、院内コンサルトチーム

● 取得できる専門医資格および技能 ●

当院は日本腎臓学会認定研修施設・日本透析医学会認定施設であり、新内科専門医・腎臓専門医・透析専門医に加えて、高血圧専門医、移植認定医、アフェレシス学会専門医などの各専門医取得を目標とした後期研修を行っています。血管吻合手技や多くの中心静脈穿刺手技を行います。



抗加齢血管内科

末梢血管障害から肺高血圧症まで幅広い血管病についての研修を行っています。

● 診療科の紹介 ●

抗加齢血管内科では循環器内科と一体となって末梢血管疾患、頸動脈硬化疾患、そして、肺高血圧症などの診断・治療を心臓血管センター内にて行っています。また、救命救急センターと協力して、心筋梗塞や脳血管障害の急性期治療も実施しています。

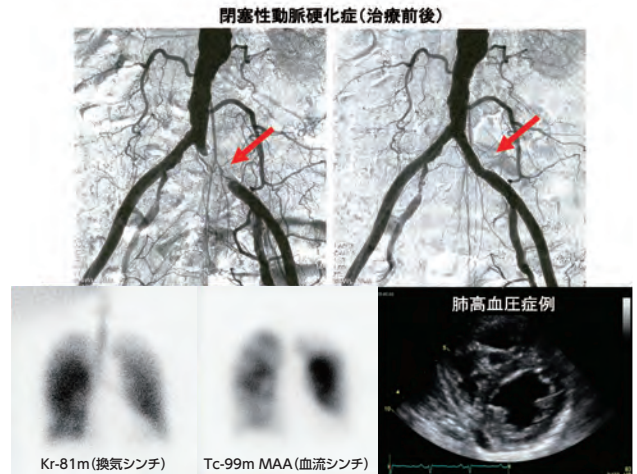
● 研修に関する行事 ●

末梢血管障害などの動脈硬化性疾患と肺高血圧症についての研修を実施しています。循環器疾患の研修も可能です。

臨床研修・臨床研究としては超音波検査やシンチグラム、CT、MRIなどを用いた頸動脈硬化症、深部静脈血栓症、大動脈疾患、肺塞栓症、虚血性脳血管障害の診断、さらに進歩著しい血管内治療や肺高血圧症に関するものを行います。

● 取得できる専門医資格および技能 ●

専門医研修では、日本内科学会総合内科専門医、循環器専門医、超音波専門医、心血管カテーテル治療学会認定医などの取得のための指導を行っています。また、基礎研究では、動脈硬化不安定プラークに多く発現する分子を標的とした診断・治療の開発に取り組んでいます。



消化器内科

消化管・肝胆膵疾患をカバーする、非常に需要の多い診療科です。

● 診療科の紹介 ●

消化器内科は腹痛、便通異常などを主訴とする多数の“common disease”を扱う極めて需要の多い診療科です。具体的な疾患としては日本の癌死亡の上位を占める胃癌、肝癌、大腸癌、膵癌などがあり、抗癌剤や分子標的治療薬による進行癌の治療や緩和医療の実践など消化器内科の重要性が年々増えています。加えて、早期の消化管癌(食道癌、胃癌、大腸癌など)や肝細胞癌に対する内視鏡的治療や経皮的局所治療などの進歩により従来は外科治療の守備範囲であった疾患が消化器内科医によりどんどん治療される時代になってきています。

このように広範な消化器疾患をあつかう当科は、高齢化の進む日本の社会において今後ますます需要が増加することが予想される重要な臨床分野です。当科はこのような社会のニーズに応えるべく、当該分野の臨床、医学研究ならびに地域医療の発展に日々励んでおります。また、大学附属病院および関連医療機関において数多くの人材を育成、県内の基幹病院へ派遣することで、包括的なチーム医療を行っています。

● 研修に関する行事 ●

		月	火	水	木	金
肝 臓	午前	腹部エコー	腹部エコー	腹部エコー	回診	腹部エコー
	午後	カンファレンス	回診	肝臓治療(RFA)	肝臓治療(IVR)	回診
消化管	午前	内視鏡検査	内視鏡検査	ESD	回診	ESD
	午後	内視鏡治療	カンファレンス	ESD	ESD	ESD
胆 膵	午前	腹部エコー	カンファレンス	腹部エコー	回診	EUS
	午後	ERCP・EUS	ERCP・EUS	ERCP・EUS	ERCP・EUS	ERCP・EUS

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本内科学会認定医、専門医 ● 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医 ● 日本肝臓学会専門医



脳神経内科

日々進歩する神経内科と一緒に学びませんか。

● 診療科の紹介 ●

みなさんは脳神経内科にどのようなイメージを持っていますか?「診断が面白い」「丁寧な診察」などポジティブな意見だけでなく、「難しい」「分かりづらい」「治療法がない」などネガティブな意見も聞こえてきそうな気がします。実際はそこまで難しいことは無く、治る病気も多いのですが、かくいう私も学生の頃はそのようなイメージを持っていました。私はお世辞にも勤勉な学生ではなく(浪人も留年もしています笑)、自分は神経内科に向いていないのではないかと、場違いではないかと思っていたこともありましたが、今では日々楽しく診療できています。それはきっと職場環境のおかげでもあり、脳神経内科という学問を系統立てて考えれば、決して難しすぎることはないからだと思います。私のように既存のイメージを打破して、脳神経内科と一緒に学びませんか?

香川大学脳神経内科にはここ数年間は毎年入局者がおり、若手主体で病棟業務に当たっています。若手のうちから豊富な症例を経験することができ、上級医の丁寧な指導が受けられる環境の中で、初期研修医は診察方法や手技の実践などの初歩的なことを学び、後期研修医は主治医として診断や検査、治療を自分で考える力を養える教育を行っています。女性医師や子育て中の医師も在籍しており、仕事と家庭を両立できる環境になっています。いつか皆さんと一緒に働ける日を心待ちにしています。

● 研修に関する行事 ●

- 回診：月曜日午前(科長) ○入院患者カンファレンス：水曜日夕方
- 脳外科との合同カンファレンス：月末の月曜日朝
- 抄読会：月3回 ○筋電図検査：月曜日午前、金曜日午後

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 神経内科専門医 ●臨床神経生理(筋電図・神経伝導分野)専門医
- 認知症専門医 ●頭痛専門医



腫瘍内科

消化器腫瘍をはじめ希少がんを含め多種多様ながん腫に対する標準治療と、未承認新規薬剤(治験)やがんゲノム診療も含めた最先端のがん治療を幅広く経験できます。

● 診療科の紹介 ●

当科は2015年2月に新設され、同年4月より幅広いがん腫の集学的治療(手術・薬物療法・放射線治療など)を行うとともに香川県のがん診療連携、がん治療に係る医療機関等との連携及びその推進、がん予防・診療についての教育・研修及び啓発、支持療法、緩和ケアの推進と統括業務を行っております。また、消化器癌を中心に、原発不明がん、希少がん、軟部肉腫など多種多様ながん腫に対する標準治療や、新薬開発(治験)を含めた最先端の治療を行っています。さらに、2019年9月に四国の大学病院としては初のがんゲノム医療拠点病院の指定も受け、最適な治療薬をいち早く患者さんに提供するためのがんゲノム診療も開始しています。緩和ケアについても高レベルのチーム医療を実践しており日常業務の中で緩和医療についての研修も出来ます。後期研修では、高松赤十字病院をはじめとする香川県内の教育病院での研修の他、さらに進んで専門科修練を、国立がん研究センターや、神戸市立医療センター中央市民病院などがん専門病院での研修も対応可能で、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医が指導に当たります。最先端のがん診療エキスパートを養成します。

● 研修に関する行事 ●

教授回診、多科合同がんボード、緩和ケアチーム回診/カンファレンス、病棟・外来化学療法レクチャー/カンファレンス、がんゲノムエキスパートパネル

● 取得できる専門医資格および技能 ●

- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 ●日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本緩和医療学会認定医・専門医 ●日本内科学会総合内科専門医
- 日本消化器病学会専門医 ●日本肝臓病学会専門医 ●日本老年病学会専門医
- 日本超音波医学会超音波専門医 ●日本肉腫学会専門医



総合内科

Subspecialtyにも根ざした総合診療医を目指します。

● 診療科の紹介 ●

総合内科は香川大学医学部附属病院(当院)の中で多くの専門診療科との連携を大切にしながら診療活動を行っています。外来診療では様々な症状を呈する未診断初診患者の診察、スクリーニングを行い、必要に応じて専門診療科への紹介を行っています。また専門診療科から一般内科的診療の依頼を受けて診療する場合があります。また不明熱など外来のみで解決できない場合は入院で診療を行うこともあります。総合内科では、臨床力があり全人的・包括的医療を行い、研究志向を持った総合内科医・総合診療医の養成を目標としています。内科のSubspecialtyを持った上で幅広い疾患に対応し、全人的医療を行ない、日々の診療から問題点を発見して研究を行う総合診療医の養成を目指しています。当院の使命は専門的な高度医療の実践ですが、総合内科では担当専門診療科が不明の疾患、専門診療科から一般内科的診察や治療が必要と考えられた患者の受け皿となり、大学病院の診療に貢献したいと考えています。

● 専門研修プログラムの特徴 ●

当科の総合診療専門研修プログラムは病院・診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために創設されました。専攻医は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する総合診療専門医になることで、以下の機能を果たすことを目指します。

- ① 地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他職種等と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービス(在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア等を含む)を包括的かつ柔軟に行う。
- ② 総合診療部門を有する病院においては、臓器別でない病棟診療(高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア等)と臓器別でない外来診療(救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケア)を行う。

● 研修に関する行事 ●

初診外来、カンファレンス、回診、症例検討会、医局会、抄読会など

● 取得できる専門医資格および技能 ●

● 総合診療専門医



感染症教育センター

内科ローテートの一環として、専門的に臨床感染症学を学びませんか。

● 研修科の紹介 ●

当センターは、感染症分野の専門人材を安定的に輩出するとともに、香川県全体の感染症診療・感染対策・地域医療の向上を目的として2021年に設立されたセンターで、現在医師2名が在籍しています。

院内の主な業務として、感染症コンサルト例への診療支援、血液培養陽性例のカルテチェック、抗菌薬適正使用支援などを行っております。新規症例は約50例/月*と豊富で、常に約20-30の症例を継続的にフォローしています。新規症例や経過に変化のある症例については、センター内でディスカッションを行い、主治医と連携をとり診療にあたっています。

また、2023年度から初期研修医の研修ローテートが開始となり、今後も医学教育に一層力を入れていく予定です。下記の通り、ローテートに条件が必要となりますが、ご興味のある方は是非一度、感染症診療を経験していただければと思います。

*2022年度4-9月累計患者数より算出

● 専門研修プログラムの特徴 ●

当センターは研修“科”として存在していないため、ローテート中の他科の許可をいただいて、ローテート中の科の時間を割いて当センターで勉強を行う形式となります。そのためローテート中の科の御予定やローテーターの諸先生のご希望を踏まえて、一人ひとり別々のプログラムで研修となります。研修にあたってのご希望があれば適宜ご相談ください。

● 研修に関する行事 ●

ASTカンファレンス、ICTラウンド/感染症ラウンド、感染症レジデントレクチャー(月1回)

● 取得できる専門医資格及び技能 ●

● 感染症診療スキルの向上 ● グラム染色

※当センターでの研修はあくまで内科研修における基本的な感染症診療スキル向上を目指すものであり、感染症専門医研修には含まれませんのでご注意ください。